



Living My Dream Life

in ふじのくに

失敗したから見た 成長する喜び

日系ブラジル人

おがわ ゆうじ
小川アンドレ優治さん

1992年東京都生まれ。日系ブラジル人2世の両親とともに幼少期を日本で過ごす。1999年に一時ブラジルへ帰国後、再来日。2009年、在日ブラジル人学校(EAS豊橋校)を卒業し、2011年に磐田市の平野ビニール工業(株)に就職。現在は同社製造部縫製課 係長。磐田市在住。



稲盛和夫さんの著書に感銘を受けたという小川さん。現在は論語にも夢中になっているという。



平野ビニール工業(株)では、さまざまな国から来た従業員が共に働いている。

上層部と外国人労働者の思いを相互に翻訳する小川さんは、社内スポークスマンとして必要不可欠な存在。

「実は人生をなめていた時期があります。でも、それがあったから今があると思います」。屈託のない笑顔でそう語る小川アンドレ優治さんは、自動車用シートの縫製・裁断を行う平野ビニール工業株式会社で外国人従業員88人のリーダーを務めている。

日本語ができるブラジル人として同社に雇用された小川さんは、現場のサブリーダーに抜擢された直後、周囲やマスコミに持ち上げられ、自信過剰に陥ったという。「今さえ良ければ、という刹那的な考えで生活が乱れ、気がつけば借金も抱えていました。その時、親身に指導してくれたのが社長です。この会社には国籍や年齢を超えて互いに認め、助け合う風があります」と小川さんは振り返る。

「外国人労働者は、将来に不安を抱く一方、享樂的な思考へ流れやすい。私もそうでした。でも、失敗から5年たった今は、人として、社会人として成長することに喜びを感じています。そんな生き方が日本で暮らす外国人の目標や希望になったら嬉しいですね」。失敗を公言し、その後の努力で立ち直った小川さんは、一緒に働く外国人従業員から慕われるとともに、頼れるリーダーとして社内の信頼を集めている。屈託のない笑顔に、まっすぐな性格と強い意志が輝いて見える。